

第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る指標の評価と今後の取組の方向性

資料 1

1 子どもが輝く未来の創生「やわた子ども未来プロジェクト」

<基本目標の達成状況>

基本目標		計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	目標値	①H30実績に対する評価	②次期総合戦略の策定に向けた左記評価を踏まえた取組の方向性
将来への夢や目標を持つ子どもの割合	小学生	88.6% (H27)	—	—	85.6% ※ ₁	90%	H30年実績は小学生の85.6%が将来の夢や目標をもっているという結果になった。これは3年前の調査より3%減少しており、目標値からもさらに遠ざかった。同様に中学生においてもH30年実績は70.9%という結果で前回より3.6%の減少。さらに目標値からも10%下という結果である。夢や希望を持つ児童生徒を増やしていく必要がある。	子どもたちが将来の夢や目標に向かって生き生きと成長するためには、自ら考え、行動し、新しい時代を主体的に切り拓く力を身に付けることが大切である。そのために、見通しを持たせつつ、子どもたち一人一人に「確かな学力」と「豊かな人間性」を育むような教育活動を進めていく。
	中学生	74.5% (H27)	—	—	70.9% ※ ₁	80%		
子育てが楽しいと思う保護者の割合		70.4% (H27)	—	—	53.8%	75%	計画当初値とH30年度実績値とでは、用いた調査内容が異なっているため、単純比較はできないが、H30年度実績値の方が10ポイント以上減少しており、子育てに対する不安や負担を感じている保護者の割合が増加している結果となった。子育ての各段階のニーズに応じた支援を切れ目なく実施し、育児不安や負担感の軽減を図る必要がある。	子どもを産み育てていく上で感じる不安の解消や負担の軽減を図る取り組みを今後も切れ目なく進め、安心して子育てができる環境を整えていく。
子育て世代の転出入者		▲232人 (H26)	▲224人	▲371人	▲146人	0人以上	H30年実績は146人の転出超過となっており、計画当初から比較すると減少傾向にある。H29年実績は転入数が前年から大幅減となったため、転出超過の数が増加している。しかしながら年齢別の人口動態を見ると、男女ともに20～24歳の層で転入転出者数とも増加しており、目標達成にはこの層の人口移動の安定化をはかることが重要だと考える。	20～24歳の層を安定させるために、次期総合戦略において、この層の方が本市で就職しやすく、また子育て世帯にとって暮らしやすいまちとなるよう、魅力的な働く場の創出を新たに追加し、取り組みを進める。

※1 平成30年度実施学校満足度調査より

<各施策の具体的事業の進捗状況>

(1) 次代を生きる力の育成

(KPIの達成状況)

KPI		計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	目標値	①H30実績に対する評価	②次期総合戦略の策定に向けた左記評価を踏まえた取組の方向性
全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生正答率)	国語A	府平均以下差3%以内(H26)	府平均以下差3%以内	府平均以下差5%以内	府平均以下差3%以内	府平均以上	H29年度に比べ、国語・算数ともに平均値は向上したが、目標値である府平均以上には達することができなかった。算数Bについては指導の効果が表れてきているが、府平均以下のままである。	少しずつではあるが学力が向上し、目標値に近づいてきているが、今後目標値を超えるように授業改善や家庭学習習慣の定着に向けて取組を一層推進していくことが必要である。その中でも国語B領域での差について、縮めることができるように、国語力の向上に向けて基礎基本から力を入れていく必要がある。
	国語B	府平均以下差3%以内(H26)	府平均以下差5%以内	府平均以下差5%超	府平均以下差5%以内			
	算数A	府平均以下差1%以内(H26)	府平均以下差3%以内	府平均以下差5%以内	府平均以下差2%以内			
	算数B	府平均以下差5%以内(H26)	府平均以下差3%以内	府平均以下差5%以内	府平均以下差2%以内			
京都府中学校学力診断テスト(2年生正答率)	国語	府平均以下差5%以内(H26)	府平均以下差1%以内	府平均以下差5%以内	府平均以下差5%超	府平均以上	国語・数学ともに昨年度をさらに下回り、3教科とも目標値である府平均以上には達することができなかった。	学力の落ち込みに歯止めをかけ、目標値に近づけるために、まずは学力の根底となる基礎基本の力が身につけられるような取組を行う。さらに、家庭学習の重要性を再認識し、家庭学習習慣を定着させ、取組の充実を図り、学力向上につなげていく。
	数学	府平均以下差5%超(H26)	府平均以下差1%以内	府平均以下差5%以内	府平均以下差5%超			
	英語	府平均以下差5%超(H26)	府平均以下差3%以内	府平均以下差5%超	府平均以下差5%超			
中学卒業時の英検3級以上の所持率		23.6%(H26)	27.7%	38.1%	38.0%※ ₂	30%	H29年度に続いて目標値を達成することができた。検定料の公費負担で全生徒が受検することにより、多くの生徒が検定を意識し、意欲的に取り組むことに繋がっている。	すべての生徒に対し、公費負担による受検を実施し、英語に対する意識・関心を向上させ、学習の動機づけの一つとなるよう、取組を進めるとともに、全生徒が3級以上の取得に向けて取り組めるよう計画的に事業展開していく。
自分の良いところを知っていて、自分のことが好きと思う子どもの割合	小学生	54.0%(H27)	—	—	65.3%※ ₁	60%	前回のH27年実績に比べ、小学生・中学生とも「自分の良いところを知っていて、自分のことが好きと思う子どもの割合」が増えた。特に小学生においては11.3%の増加で、目標値の60%を5.3pt上回った。中学生においてもほぼ目標値になった。	自分の良いところを知り自分のことが好きだと思えるよう、自己肯定感や自尊感情をさらに育むような取組を進める。さらに他者の個性を認め、自他ともに大切にしている児童生徒の育成を目指す。
	中学生	45.5%(H27)	—	—	49.7%※ ₁	50%		

※1 平成30年度実施学校満足度調査より

※2 英語検定公費負担受験者の合格者をもとに算出

(2) 好奇心・探究心と夢を掴む力の育成

(KPIの達成状況)

KPI		計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	目標値	①H30実績に対する評価	②次期総合戦略の策定に向けた左記評価を踏まえた取組の方向性
放課後子ども総合プラン実施箇所数	一体型	—	0か所	0か所	0か所	4か所	国では、全就学児童を対象とした放課後学習クラブと放課後児童クラブの一体的な実施を進めているが、本市では、5.6年生を対象とした放課後学習クラブへ4～6年生の放課後児童クラブ利用者が参加している状況に留まっており、平成30年度においても全就学児童を対象とした実施はできなかった。	引き続き、放課後児童健全育成施設との連携を模索し、学童がやわた放課後学習クラブの取組に参加できるよう取り組む。
	連携型	—	0か所	0か所	0か所	4か所		
子どもわくわく教室開催数		7教室(H26)	7教室	7教室	7教室	8教室	参加者数は前年度と比較し、全体で延べ270名増となった。教室によっては、指導者の高齢化や指導者の人数不足が起こっているため、教室の内容に見直しが必要。	体育協会や文化協会との連絡、調整を密にし、実施可能な種目や時間帯等の見直しを図る。そのうえで、目標値である8教室の開催ができるよう努める。
毎日楽しく過ごしている子どもの割合	小学生	86.8% (H27)	—	—	87.3%※ ₁	90%	H30年実績は前回の3年前に比べ、小学生で0.5%の上昇が見られたものの、中学生は1.8%の減少。目標値との比較では、小中学生ともに目標値の90%には届かなかった。	学習、友人関係、部活動など子どもたちが何か一つでもしっかり取り組めるように支援及び助言しながら、教育活動を推進する。放課後の児童生徒の安全・健全な居場所づくりや、障がいなど配慮が必要な子どもたちに対する支援体制の充実を図る。
	中学生	86.2% (H27)	—	—	84.4%※ ₁	90%		

※1 平成30年度実施学校満足度調査より

(3) 出産から子育てまで一貫したサポートの充実

(KPIの達成状況)

KPI	計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	目標値	①H30実績に対する評価	②次期総合戦略の策定に向けた左記評価を踏まえた取組の方向性
保育園待機児童者数	0人 (H26)	0人	0人	0人	0人を維持	各施設との連携を図る中で個別に細やかな利用調整を行ったことにより、計画当初から継続して目標値を達成できている。	幼児教育・保育の無償化をはじめ保育需要の高まりが予測されるが、引き続き各施設との連携や利用調整を図り、待機児童ゼロの継続を目指す。
認定こども園実施箇所数	1か所 (H26)	3か所	3か所	5か所	5か所	市内民間園への継続的な働きかけにより、平成30年度中に目標値を達成することができた。	八幡市子ども・子育て会議からいただいた「八幡市立就学前施設の再編について」と「就学前教育・保育の充実について」の答申に基づき、公立施設の認定こども園化を進めるとともに、民間施設が認定こども園へ移行を希望する場合に必要支援を行う。
マイこども園制度登録者数	-	1,984人	3,442人	3,276人	2,000人	当該目標値を大きく上回る結果となり、一定の普及が図られた。	保育園等で実施する園開放等において、引き続き、未就園児の保護者を対象とした相談・支援に努めるとともに、更には利用者支援事業をはじめとする地域子ども・子育て支援事業の充実にも取り組む。

2 健幸都市の創生「やわたスマートウェルネスシティプロジェクト」

<基本目標の達成状況>

基本目標		計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	目標値	①H30実績に対する評価	②次期総合戦略の策定に向けた左記評価を踏まえた取組の方向性
健幸クラウドシステム	体の状況とライフスタイル	(未設定)	—	1.5	1.5	5段階中1ポイント上昇	総合評価に変化はないが、健診の結果からは、メタボ該当群や予備軍の割合が男女ともに7%程度減少していた。一方で、問診票の結果からは、食習慣の得点が前年度と比較して下がっていた。	健診の結果やライフスタイルは変化するまでにある程度の時間がかかるものであることから、健康への意識向上に向けた働きかけを継続していく。
	ソーシャルアクティビティ	(未設定)	—	1.5	1.5	5段階中1ポイント上昇	前年度から大きな変化がない状況である。コミュニティの活性化や、まちのにぎわい、ポピュレーションアプローチの取組等が評価の対象となるので、これらに関連する取組の推進が求められる。	健康づくりに限らず、イベントを開催する際には、まちのにぎわいを創出するという意識を持って、企画・開催していくことが重要である。また、超高齢化社会の現代においては、地域コミュニティが健康づくりの主体を担う仕組みづくりに必須であると考え。これらのことを踏まえて取組を選択、実施していく。
	スマートウェルネスシティインフラ	(未設定)	—	1.5	2.0	5段階中1ポイント上昇	新たなインセンティブ事業の検討や、健康無関心層への積極的なアプローチを行っていることが、0.5ポイントの上昇へとつながった。	行政内外のSWCに関する認知度を高めることが、都市環境整備の機運を高めることや、取組の推進体制の構築に向けた一番の近道であると考えため、SWCの認知度向上に向けた取組をさらに推進していく。

<各施策の具体的事業の進捗状況>

(1)スマートウェルネスシティやわたの промоーション

(KPIの達成状況)

KPI	計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	目標値	①H30実績に対する評価	②次期総合戦略の策定に向けた左記評価を踏まえた取組の方向性
健幸づくり計画(仮称)の策定	—	構想策定	計画策定	計画推進	策定	目標である計画の策定は平成29年度に達成できている。 平成30年度には、計画に記載の健幸マルシェ事業の実施や、インセンティブ事業のICT化などソフト面での計画推進が図ることができたが、まちの健幸づくりや、健幸づくり体制の整備といった項目では、まだまだ取組が進んでいない状況である。	計画に記載の取組のうち、ソフト事業を中心に計画推進を図っている状況であるが、庁舎整備や駅前整備などのタイミングを見計らって、小規模でも健幸づくりにつながるハード整備や仕掛けづくりを進める。また、健幸づくりの体制整備においては、産官学民の健幸づくり推進連携体制の構築を目指し、検討を進める。
健康フェスタ参加者数	約2,500人	2,400人	700人	2,200人	3,000人	台風の影響があった前年と比較し大幅に参加者数が増加したが、目標達成までは至らなかった。新たな企画を積極的に行うなど、目標参加者数の達成に向けた取組はできたが、本市のメインターゲットである中高年齢層に効果的にアプローチできていない状況である。	本市のメインターゲットである中高年齢層に対し、「健康づくり」のアプローチが効果的にできるよう、「健康マルシェ」を様々な地区で開催するなど、中高年齢層を中心とした健幸づくりイベントの開催を検討する。

(2) 市民協働で行う高齢者の健康づくり

(KPIの達成状況)

KPI		計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	目標値	①H30実績に対する評価	②次期総合戦略の策定に向けた左記評価を踏まえた取組の方向性
産官学と地域連携によるコミュニティ運動教室	実施個所数	—	4か所	4か所	5か所	20か所	平成30年度にはこれまでに教室の設置がなかった地域に新たな会場を1か所開設し、参加者増につながった。会場の選定に当たっては人口規模や市民ニーズから地域を絞り効果的に配置された。目標値には遠く及ばないが、少しずつ教室が定着してきていると考える。	教室の定着、拡大には少し時間がかかっている状況であるが、住民主体の通いの場づくりとして必要な施策であると考えられる。 予想よりも1教室に従事する担い手の市民数が多いことから、担い手が今より少なくても教室運営できる方法を実施主体であるNPOと相談しながら検討し、教室の拡大を目指していく。
	参加者数	—	64人	84人	106人	500人		
平均寿命と健康寿命の差	男性	1.7歳 (H26)	1.8歳 (H28)	1.95歳	1.80	現状値より 縮小	平成29年度と比較して、平均寿命と健康寿命の差が男女ともに縮小となったのは健康づくりの取り組みの成果として一定評価できるが、計画当初値と比較すると、差が広がっている状況にある。	健康寿命の延伸、および平均寿命との差の縮小は、健幸まちづくりの推進の中で、様々な取組が効果的に推進されることにより、実現されていくものである。まだ平均寿命は延びている状況にあることから、今まで以上に取組を推進する。
	女性	3.9歳 (H26)	4.3歳 (H28)	4.18歳	4.09	現状値より 縮小		

(3)誰もが気軽に参加できる健幸プログラムづくり

(KPIの達成状況)

KPI	計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	目標値	①H30実績に対する評価	②次期総合戦略の策定に向けた左記評価を踏まえた取組の方向性
健康マイレージ利用者数	17人(H26)	548人	535人	561	1,000人	例年と比較して様々な場所に出向き周知に取り組んだが、参加者数は過去最高を更新したものの、前年度からの微増という結果に終わった。	事業効果を適正に評価でき、医療費や介護給付費の抑制にインパクトを与える規模で実施することができるICTを活用したインセンティブ事業を平成31年度から5年間計画で開始する。設定している5年後のKPI達成に向けて取組を推進するとともに、事業費をいかにまかなっていくかの仕組みづくりも5年間の中で合わせて検討を進める。
産官学連携健幸プログラム開発数	—	3	4	5	4	新たなプログラムとして、インセンティブ事業のICT化に向けた検討を行い、施策実施に向けて筑波大学や株式会社タニタヘルスリンク、また地元の金融機関との調整を行い、平成31年度からの事業実施へと繋げた。	人口減少社会であることや、庁舎整備を控えていることを踏まえると、健幸づくりに活用できる予算は年々減少していくことが予想される。そのことから、金銭面及び人員面での行政負担を軽減し、民間のノウハウや地域のつながりを有効活用して、産官学民連携の事業をより一層推進することが効果的であると考え。
特定健康診査受診率(人間ドック含む)	0.5%(H26)	43.8%	44.7%	44.7%	60%	特定健診の40～59歳の前年度未受診者に郵送による未受診者勧奨を行っているが、H30年度は、未受診者勧奨の対象者の内、受診する可能性の高い前々年度受診者に電話での勧奨も追加で実施した。また勧奨の圧着ハガキを視覚的に着目しやすいようにはがきサイズから大判サイズに変更した。結果、目標とする60%には届かなかったが、受診率を維持することができた。	郵送による未受診者勧奨については、年齢で絞らずに前年度未受診者全体を対象とする。また、各自治会の掲示板にポスターを掲示するなど、広報活動も拡充し、さらなる受診率の向上を図る。

3 文化と暮らしの創生「やわたチャレンジプロジェクト」

<基本目標の達成状況>

基本目標	計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	目標値	①H30実績に対する評価	②次期総合戦略の策定に向けた左記評価を踏まえた取組の方向性
年間観光入込客数	183万人 (H26)	206万人	260万人	218万人	225万人以上	平成29年に目標値を達成したが、平成30年は地震、台風の災害により観光施設の閉鎖が重なり激減したものの。例年どおりであれば目標値を達成したものと考えられる。	平成31年3月に策定した観光基本計画では、文化財活用等文化観光推進など観光基本計画の実現により、過去5年の伸び幅を維持する目標値として、285万人を設定している。
年間観光消費額	4.53億円 (H26)	6.31億円	6.38億円	6.26億円	5.3億円以上	平成28年より吉兆の売上を加算したことにより大幅に増加しているが、これを除いても目標値を達成しているため、観光客増加に伴い観光消費も拡大している。	平成31年3月に策定した観光基本計画では、観光消費額の低さを大きな課題と位置付け、一人当たりの消費額を50円アップすることを目指し、目標値を8億5千万円に設定している。
まちの魅力度(全国順位)	365位 (H27)	437位	531位	381位	200位以上	平成27年の結果と比較し、順位付けのもととなる本市の指標は、平成27年が5.2ポイント、平成30年が6.5ポイントと上昇してきているが、順位としては後退している。また、本調査は、インターネットを介した調査となっており、同調査では認知度の順位も後退するなど、情報発信力や施策の見せ方など、八幡市の認知度の影響も大きいものと考えられる。	観幸まちづくりを通じた、八幡市の認知度の向上を図るとともに、子育て施策や健康まちづくりなど、市の魅力的な施策に係るPRに積極的に取り組むことで、認知度の向上やまちの魅力度及び居住意欲度の向上を図る。
転出入者数	▲134人 (H26)	▲338人	▲159人	▲181人	0人以上	H30年実績は181人の転出超過となっており、計画当初値と比較すると増加傾向にある。転出入者ともに減少傾向にあるが、転出者数の減少を大幅に上回る転入者数の減少の影響から、転出超過の状況が拡大している。	子育て世帯にとって暮らしやすいまちや健康で幸せに暮らせるまちづくりを進めるとともに、魅力的な働く場の創出を新たに追加するなど、「人とまちの双方の健康づくり」を進めることで、転出者の抑制を図るなど、転出入者の均衡を図る。

<各施策の具体的事業の進捗状況>

(1)「世界から関心を集める観光都市・やわた」へのチャレンジ

(KPIの達成状況)

KPI	計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	目標値	①H30実績に対する評価	②次期総合戦略の策定に向けた左記評価を踏まえた取組の方向性
観光客の満足度	(未設定)					第5次八幡市総合計画(平成30年3月策定)の策定段階において、アンケート調査を実施する予定としていたが、調査手法等の課題があり、アンケート調査を実施できておらず、代替となる指標を検討中。	
観光意欲度(全国順位)	396位	426位	328位	375位	200位以上	平成27年の結果と比較し、順位付けのもととなる本市の指標は、平成27年が15.2ポイント、平成30年が17.5ポイントと上昇してきており、順位も徐々に上昇してきており、石清水八幡宮の国宝指定や背割堤のさくらの認知度向上などの影響が出てきていると考えている。	指標や順位のさらなる向上を図っていくためには、観光拠点のさらなる磨き上げを図るなど、観幸まちづくりのさらなる推進を図る必要があると考えており、観幸まちづくりに係る施策を一つの基本目標として独立させる予定としている。

(2)「日本一魅力的なスローライフタウン」へのチャレンジ

(KPIの達成状況)

KPI	計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	目標値	①H30実績に対する評価	②次期総合戦略の策定に向けた左記評価を踏まえた取組の方向性
市民の幸福度	(未設定)					第5次八幡市総合計画(平成30年3月策定)の策定段階において、アンケート調査を実施する予定としていたが、共通した「幸福」の概念の設定などの課題があり、アンケート調査を実施できておらず、代替となる指標を検討中。	
居留意欲度(全国順位)	233位	321位	275位	259位	150位以上	平成27年の結果と比較し、順位付けのもととなる本市の指標は、平成27年が3.7ポイント、平成30年が5.3ポイントと上昇してきているが、順位としては後退している。また、本調査は、インターネットを介した調査となっており、同調査では認知度の順位も後退するなど、情報発信力や施策の見せ方など、八幡市の認知度の影響も大きいものと考えられる。	観幸まちづくりを通じた、八幡市の認知度の向上を図るとともに、子育て施策や健幸まちづくりなど、市の魅力的な施策に係るPRに積極的に取り組むことで、認知度の向上やまちの魅力度及び居留意欲度の向上を図る。

(3) やわたEDISONチャレンジ！

(KPIの達成状況)

KPI	計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	目標値	①H30実績に対する評価	②次期総合戦略の策定に向けた左記評価を踏まえた取組の方向性
創業者数	—	2人	11人	5人	8人	平成28年1月に創業支援事業計画が認定され、市内での創業者数は、平成29年度に目標値を達成したが、平成30年度では落ち込んだ。創業時期は、相談時からズレが生じることもあり、また、時期によって変動が生じるため、右肩上がりに増加することは難しいが、相談者が増加していることから、一人でも多く創業に結びつけるよう、それぞれの創業に対する課題に関係機関とともに積極的に支援していく必要があると考える。	創業者数の増加については、相談者の課題が多様であることから、専門家派遣を活用するなど、関係機関との連携を強化するとともに、特に課題となる資金繰りについて、新たな支援制度の創設を検討していく。
創業支援対象者数	—	13人	16人	19人	24人	創業支援対象者数は、年々増加傾向にあるが、目標達成には至っていない。現在の相談者は、創業する決意をもった相談者が大半であるが、創業に対する無関心層や創業に踏み込めない者を如何にして呼び込むかが重要であると考え。	創業支援対象者数の増加については、創業希望者の掘り起こしとして、関係機関を通じたPRを進めるとともに、既存の相談者からの口コミを狙い協力を依頼する。